

創世記 第1章 1節

「初めに、神が天と地を創造した。」

天地万物の始まりにしては極めてシンプルな宣言である。シンプルなゆえにすべてが神の視野に治められている真理にいっさいの疑念を挟む余地がない。シンプルであるからこそ、神の業の深遠さが尽きることがない。シンプルであるからこそ、創造の恵みに与っているもの、東西南北、ことごとくいっさいから漏れることはない。

宣言がシンプルであることは必然である。すべての始まり以前に初めがあり、永遠なる神がおられるからである。それ以外の存在は皆無。唯一無比なる永遠の存在者の神から始まった天地万物である。たとえどれだけ世界が複雑、混沌としていても、騒ぎ立っても聞くべきみ言葉はシンプルだ。「神が天地を創造した。」カオスの世で仰ぐお方はシンプルである。「初めに、神が」である。

みことばの初めを信仰の耳で聞き、御業の始まりを信仰の目で見ると、そこにおられる主なる神が聞く者、見る者の歩みを通し、新創造を続けてくださる。天地万物を創造された神を聞く者、見る者に、神は新創造の麗しさをご自身の栄光のゆえに前進させてくださる。

それゆえ、万物は顔をあげ主なる神をほめたたえる。